

高校生のオリンピック、甲子園とは

皆さんは国際科学オリンピックを知っていますか。世界の中高等教育課程にある生徒を対象に科学技術に関する国際コンテストで毎年開催されています。数学、物理、化学、情報、生物学、地理、地学の7つの科学オリンピックがあり、他に哲学、天文学、言語学なども国際大会があります。国際科学オリンピックに出場するには、各国のコンテストに出場し、優秀者に選ばれなくてはなりません。国内で2～3段階の選抜がなされ、合宿や研修、教科指導を経てオリンピックに出場することができるのです。全国の高校生に科学の面白さと楽しさを体験してもらうためのコンテストです。

この世界大会を総称して国際科学オリンピックと言います。文部科学省が平成29年3月に出した『科学オリンピックをめぐる現状と次世代の科学技術イノベーションを担う人材の育成について』によれば、参加している国が一番多いのは数学で109カ国・地域を数えます。日本は一定の数の金メダルを毎年獲得し、健闘していますが、やはり全体的には中国、アメリカ、韓国、台湾、ロシアなどの国・地域が強いようです。国際科学オリンピックは次世代の科学技術を占うことに繋がります。そういう意味で科学オリンピックの開催に、政府、企業、大学、研究所等が主催、後援などの支援を行っています。

この科学オリンピックに参加することにより、自己の実力や適性を知って、自らの進路を考える大きな機会になります。また、優秀な成績を収めると総合型選抜など、大学入試で有利に働く場合もあります。

科学オリンピック以外にも国際的に有名なコンテストはたくさんあります。例えば、国際学生科学技術フェア＝ISEF(International Science and Engineering Fair)は、科学の自由研究を競うコンテストを毎年開催しています。このコンテストに静岡県立掛川西高校自然科学部の生徒2名が出場することをニュースで知りました。彼らは学校の裏山に棲むフクロウが羽ばたくときに落とす皮脂や羽毛の微粒子から空中DNA検出できることを明らかにしました。このフクロウの空中DNAの検出から鳥インフルエンザや人間のインフルエンザの流行予測等に用いることができるのではないかと、テレビで語っていました。

本校のK-ARPのなかで、このようなレベルの課題を考える生徒が出てくる

ことを、校長は期待しています。

高校生の全国大会で通称「甲子園」の名前を冠する大会が多くあります。野球は硬式、軟式、女子共に名称として用いています。他のスポーツでもカーリング、セーリング、K-1、ゴルフ、ダンスなどでも用いられています。また、スポーツのみならず文化系の大会についても用いられています。この文化系甲子園で歴史があり、有名なものに「クイズ甲子園」があげられます。その他に「商い甲子園」「アニメ甲子園」「生け花甲子園」「囲碁の甲子園」「宇宙甲子園」「かるた甲子園」「写真甲子園」「書道パフォーマンス甲子園」「演劇甲子園」「映画甲子園」「カクヨム甲子園」「科学の甲子園」「小説甲子園」「数学甲子園」「そろばん甲子園」「俳句甲子園」「ファッション甲子園」などの甲子園が存在します。

校長の前任校横浜清陵高校は、第 25 回(2018 年)「写真甲子園」(全国高等学校写真選手権大会)で準優勝に輝いたことがありました。3 名の生徒が 7 月末～8 月初めの 4 日間、北海道の東川町、美瑛町など主催 1 市 4 町内の一帯で組写真を創る大会です。賞として賞状、メダル、副賞があり、確か副賞は高価なカメラだった記憶があります。この受賞が縁で、教育雑誌「月刊高校教育」の表紙に写真部の生徒の撮影した写真が用いられています。

さらに、大学では高校生向けのコンテストや論文を応募しています。例えば、慶應義塾大学が主催する「全国高校生小論文コンテスト」があります。最高位の賞は小泉信三賞といい、1933 年から 13 年間におよび塾長を務めた小泉信三氏の名を頂いています。今年度は 8 月 25 日までが締切になっています。小泉信三賞は賞状、副賞 15 万円、記念品となっています。

神奈川大学では、高等学校での学習・研究に新たな目標を与え、広く理科教育を支援する試みとして「理科・科学論文大賞」を設けています。理科・科学に関する研究や実験、観察、調査の成果の論文を、A4・10 枚程度の 16,000 字、8 月 25 日までが締切となっています。個人のみならずグループや部単位でも参加でき、昨年は努力賞に本県の相模原弥栄高等学校 サイエンス部が受賞しています。大賞で奨学金 10 万円と記念品となっています。

昨年、日本経済新聞社が主催し、明治大学、東京農業大学、拓殖大学の 3 大学が協賛した「日経 SDG s フェス 高校生 SDG s コンテスト」が開催されました。このコンテストは、高校生が身近な課題を SDG s の観点で考えアイデアを競い合うものです。高校生が日ごろの SDG s の学習に取り組む成果を発表し、他校からの発表をとおして学びを深めるものになっています。

高校生オリンピック、甲子園、大学のコンテスト、地域社会のコンテストなどに参加することは、自分の進路や未来を探る機会になります。是非、参加してください。